

3. 令和元年度卒業生

- | | | |
|----------|---------|---------|
| ✿ 奥田 綾乃 | ✿ 松原 大勇 | ✿ 原井 亮太 |
| ✿ 川中 みなみ | ✿ 内藤 貴一 | ✿ 諸岡 慎士 |
| ✿ 松下 祥大 | ✿ 中嶋 誠也 | ✿ 吉田 龍也 |

■ 奥田 綾乃

入学当時、大学生生活6年間は長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業が迫ってきました。振り返ると、遊びに勉強に部活に没頭していた私にとっては、地域ゼミや夏季実習の活動のお陰で、医学生としてより充実した大学生活を送ることができました。

この6年間、地域医療について多くのことを学ばせていただきましたが、中でも最も印象に残っているのが夏季実習です。フィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった、熊本で医療に携わる上では知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運ぶことで深く学習することができ、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。また、診察や診療はもちろん、病気の予防や健康増進、さらには患者個人・家族背景まで考えることで、地域住民の身体的・精神的健康に責任をもって支えていけるような医師が必要とされていること、そのために特に重要なのは、患者さんや家族はもちろん、周囲の医療従事者と良好な関係を築くことだという、最も基本的で最も大切なチーム医療についても学ぶことができました。

低学年の頃は、受け身の姿勢で参加していたゼミや実習も、学年があがるにつれて、より多角的な視点で地域医療とは何かを自ら考えることができるようになったと思っています。特に最後の夏季実習では初めて最上級生として学年やグループリーダーを任せられ、今までの実習とは置かれた立場の違い、緊張感のある、実りの多い3日間でした。同時に、今まで当たり前のように参加してきたこの実習が、本当にたくさんの方々の支えがあって成り立つものであるのかを改めて実感しました。また、運営に関しても、入学した頃から一緒に活動してきた同級生の存在はやはり大変心強いものでした。

国家試験に無事に合格できれば、4月からは、初期研修医として熊本の医療に少しでも貢献できるように精進してまいります。忙しい毎日でも感謝の気持ちを忘れず、地域住民の方にとっての「理想の医師像」に少しでも近づきたいと思っています。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習や進路等でお世話になりました多くの方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

■ 川中 みなみ

地域医療ゼミに所属してからの6年を振り返ると、とても充実し、学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は、医学の知識もほとんどなく、何事も上級生の先輩方、先生方に教えていただきながら、夏の地域医療合宿を楽しみにゼミに参加しているような部分があったな、と個人的に思います。月に一度行われる地域医療ゼミは、私たちにも参加しやすいようにしてくださっていて、低学年にも楽しいゼミでしたが、自分に「地域医療」というものに漠然としたイメージしかなく、自分自身が働く景色も具体的に想像できていなかったように思います。

学年があがるにつれ、ゼミを通してグループをまとめたり、低学年の後輩に考えてもらったりする機会が多くなりました。大学生活の中で自分がそういった立場になることが少ないので、とても良い経験ができたと思います。地域医療の学会の見学にも連れて行っていただく機会があり、他の学校の同年代のほぼ同じ立場の学生がどのような活動を行っていて、どのような姿勢で地域と関わっているのかを知り、とても刺激を受けました。ゼミや地域実習を重ねると少しずつ地域医療に対する自分の考えも持てるようになってきて、同時に地域に住む方々や、地域で医療に携わる方々の想いも感じ取れるようになってきました。地域医療への関わり方も、ひとつではないと分かり、実際に自分の将来像に当てはめて考えることが多くなりました。

地域医療に関わるきっかけになるなら、初め漠然としていてもいいのかもしれないと振り返りをしながら感じたので、もっと多くの方がゼミに参加してくれるといいなと思います。また、私たちの実習や今後の医療体制を考えて下さっている方が、大学だけでなく他の病院や県行政のほうにもいらっしゃり、それはとてもありがたいことで、していただいたことを今後活かしていかなければ、と思います。これから研修医となり、その後この科を選択するかはわかりませんが、6年間通して「地域医療」について考えてきたことを、何かの形で熊本の医療の貢献につなげたいと思います。

■ 松下 祥大

自身の大学生生活を振り返ってみると、地域医療実習やゼミの存在というのがとても大きなものであったと感じています。卒業というせっかく機会に少しだけ思い起こさせていただきたいと思います。

一年生の夏季実習というのは本当に大きな体験でした。多くの先輩方と一緒に名も知らぬ自治医科大学の皆様と一緒に宿泊での実習。ただただ緊張の中に始まったことを覚えています。しかしながら、フィールドワークの中で出会った地域の方々との交流の中で自然と打ち解けていきました。また、この実習の中で触れてきた多くの思いというものが、私自身の医師像というものに多大な影響を与えました。その思いとともに日々の学習というものを進めてきたように感じています。

それから毎年の夏季実習に参加するたび、その医師像というものはより具体性を帯びてきました。大学での臨床実習が始まると今度は大学での医師の在り方というものに多く触れ、その差異により、「地域の医師」というものがより明確化してきたように感じます。

やはり私は地域医療というものが好きなのではないか。そう思ったのもこの頃だったと覚えています。それは生まれた場によるところも大きいとは思いますが、これまでの実習やゼミでの学習というものが影響したのでしょう。

昨今の地域の医師不足は解決すべき大きな問題です。一つの解決の糸口として、今まで体験してきたような小さな交流というものがあるのではないのでしょうか。そのような貴重な場を、いままで提供して下さったことに感謝しかありません。

この学生生活において一つの目標ができました。「地域に必要とされる医師になる」というものです。これは終生のものになりえると考えています。この目標を胸に医師としての道を歩み続けていきたいと考えています。

■ 松原 大勇

今思い返せば熊本大学に入学したのが遠い昔のように感じています。6年前熊本大学への入学が決まり、憧れの大学生活へ思いを募らせていたときに熊本県庁から一通の手紙が届きました。地域枠合格者は入学前の3月に入学前説明会のため熊本大学に集合するようという内容でした。熊本県庁から直接の連絡であったため、大変緊張して大学に足を運んだ記憶があります。恐る恐る参加してみると、地域医療ゼミの先輩方が新入生のために入学後の過ごし方を親切に教えてくださいました。大学生活について無知であった新入生にとって大変役立つ話ばかりであり、おかげで大きな苦労もなく新生活を始めることができました。今思えば入学前から地域医療ゼミの先輩方にはお世話になっていました。

入学してから毎月行われる地域医療ゼミや夏季実習などイベントが多くありました。特に夏季実習は低学年から毎年楽しみにして参加していました。低学年では基礎の授業が中心であり実際に地域医療の現場を体験できることだけで貴重な経験でした。学年が上がり臨床現場で実習を行うにつれて夏季実習に対する意味合いが変わってきました。特に5年生での夏季実習は印象に残っています。自分たちが学生の中心となり微力ながら実習の運営に関わることで、夏季実習の開催にあたり多くの方の協力の上で行われていることに改めて気付かされました。毎年何不自由なく実習に参加できていたことに感謝しています。

また、6年間を通じて地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、事務の方々には非常にお世話になりました。迷惑をかけることが多々あったと思います。暖かく見守っていただき本当にありがとうございました。これから医師国家試験を無事に突破し熊本の地で医師としての一歩を踏み出したいと思います。

■ 内藤 貴一

振り返ってみると長いようで短かった6年間。本当にあっという間でした。まず個人的なことから振り返りたいと思います。東京から熊本にやってきて勝手が違う部分に苦労したこともありました。特に金銭面で悩んでいたところ、熊本県医師修学資金貸与制度の中途採用が始まり藁にもすがる思いで応募して採

用していただいたときのことは今でも覚えています。残念ながら4年次にはテスト期間をうまく乗り切れず留年してしまい、生活費を稼ぎ出すためにあるビジネスホテルで室内清掃のアルバイトをしました。ここでは高齢な方もいて厳しい労働環境の中働いている姿を目の当たりにしました。あえてこの経験を文章に残す理由は、あの頃に見た一言では言い表せない光景とそれに対する責任感を失いたくないからです。自分が果たすべき義務と学びやへの希望を胸に臨床研修に向かおうと覚悟しております。

次に地域枠の活動を振り返りたいと思います。地域医療に関して非常に多くを勉強させていただきました。熊本県は全国平均よりも医師が多い県ですが、そんな熊本県でも医師の偏在により医師が不足している地域が少ないことを知りました。これからは地域医療に携わる首都圏出身者として「医師偏在」の問題にこれから一石を投じたいと思います。地域医療に関わる「楽しさ」「やりがい」そして「メリットや利点」を発信していくとともに「情報通信技術(5GやIoT)」を通して地域医療がこれからどんどん変化していくことをほぼ確信しております。これからは「地域医療が最先端」という気持ちでキャリアを形成することに期待が高まります。

■ 中嶋 誠也

時が経つのは早いもので、勉強や部活で追われるように過ごしているとあっという間に長い長い学生生活の最後の六年間が経ってしまった。その過ぎ去る日々の中で時折、地域医療に将来携わる身であることを思い出させてくれたのが地域医療ゼミであった。低学年の時分から将来の自身の働く姿を想像することは、長い医師としてのキャリアを考えるのに一役を買ってくれたと感じたので大変有意義な時間を過ごせたと思う。その中でも特に記憶に残っているのは一年の夏季合宿と、最後の幹部学年として運営していたゼミのことである。

最初の夏季合宿では阿蘇方面での実習で、自分は山都町包括医療センターそよう病院で実習をさせていただいた。まだ医学的知識も少ない中でとにかく地域医療の雰囲気を感じようと臨んでいたことを記憶している。その中で出会った医師の一人に、自分が目標とすべき医師像に合致する先生がいらっしゃったため、その出会いが六年間の最初にあったことは大きな収穫であった。長い学生生活の中にはテスト勉強や実習で忙しく精神的にも辛い時期はたくさんあったが、その都度立ち止まりつつも迷わずにここまでこれたのはその出会いによって自分の目指すべき姿や方向の軸がこの時にはっきり定まったからだと感じている。

また、自分が幹部学年となりゼミを運営していく一部となった時には、もちろん責任感が芽生えたからでもあるが、後輩達に伝える立場になって改めて『地域医療ゼミ』というものを考え直す機会が自分に生まれた。自分はシネメデュケーションというテーマを扱ったが、単なる映画鑑賞に終わらせずにどれだけ各々の考えを引き出せるか、どれだけ医療における考えるべき問題に関与させられるか、などを寄附講座の方々と意見を擦り合わせる内に、ゼミの運営はシンプルなようでとても難しく、また大変やり甲斐のあるものだと感じた。とても良い機会を頂けたと思っている。

六年間でお世話になったことを忘れずに、自分の身につけた医療をしっかりと地域に還元できるようにこれからも努力していきたいと思う。

■ 原井 亮太

私は元々他大学の文学部で哲学を学んでいました。専門は言語哲学と呼ばれる分野で、特に固有名詞の意味という、おおよそ医療と関わりもなさそうな事項について他者と議論を交わしていました。はじめに医学に関心を持ったのも、言語と脳の関係について生物学的知識を得たいという程度であったと記憶しています。ちょうどそのころは、東日本大震災や原発事故が発生し、医療に関わる重要なトピック、言説が多く噴出している時期でした。その頃何ら医学的知識を持たない私は、様々な自然科学の専門家たちが、人文科学の目から見ればあまりにもナイーブな物言いをすることにショックを受けました。そうした見方をもつ自分が、何か医療に貢献できることがあるのではないかと考え、医師を志すようになりました。

幸運にも熊本大学に拾って頂き、医学生となった後は、医師就学資金を頂けたおかげで勉学に集中することができました。その他、柴三郎プログラムや各種奨学金の援助により、海外研修や研究室インターンなどに参加することで、ほんの一端ではありますが、基礎研究という新たな視座を得ることもできました。3年時には、熊本地震も経験しました。医学部入学前に、東日本大震災でメディアを通して目の当たりにしたような風景、それまで隠匿されていたような問題が噴出する様子を、今度はより身近なものとして体験し、より一層自分が無力であると感じました。

その後臨床実習や国家試験を経て現在に至るこの6年間を振り返ると、私が達成できたことは、せいぜい医学部のカリキュラムについていくこと、それに加えて基礎研究を少し齧る程度のことであったと思

ます。6年間で得た知見を活かし、人文科学や自然科学といった垣根を超えた危機的問題の解決に貢献できる人間になるという課題については、来年度より医師として熊本で働き地域医療に貢献しながら追求していきたいと考えております。6年間支援頂いた皆様、ありがとうございました。今後ともよろしく願います。

■ 諸岡 慎士

今こうして医学生としての6年を振り返ってみると、あつという間の6年間だったということが正直な気持ちです。医師が不足しがちな地域で医師として働きたいと思い、この大学に入学しました。低学年時は特に診療科に拘らずに、いわゆるcommon diseaseほどしっかりと鑑別出来るようにしなければと、そのような疾患ほど時間をかけて勉強するよう心がけてきました。

やがて病院内での臨床実習が始まり最初実感したことは、患者さんの多くが複数の疾患を合併していることが多いため、対応が一つに決まっている訳ではなく、常に患者さんの状態を観察し、考えながら治療に臨まなければならないということでした。人の命を預かることがいかに大変な仕事なのかということを感じさせられました。

また地域の病院に実習に行った際によく聞いたこととして、医師の数に対して患者さんの数が多いため、時間をかけて診ることが難しいということでした。限られた人員・時間の中では、患者さんの抱えている複数の問題の軽重を判断し、主訴に沿った処方なりを素早く行わないと医療現場が回っていかないということでした。この繁忙さはじっくりと深く疾患について考えたいという医師にとっては悩ましいものであり、地域医療に従事するという選択の障壁の一つになると思いました。

臨床実習自体は私たちの年次から長くなったとのことですが、卒業試験までの時間が足りないと感じたこと以外はとても有意義でした。特に指導医にその場ですぐに質問できるということが私にとって一番良かった点です。ただ患者さんと触れあう時間を多くの診療科で取れなかったことが、これから実際の医療現場で働くにあたっての不安な点であり、心残りな部分でもあります。

これから熊本県の様々な地域で医師として働くにあたり、実に多くの悩ましい課題と直面することになると思いますが、卒業に当たって医師として頑張ろうと思った今の気持ちを忘れず、周囲の指導を仰ぎながら、患者さんに向き合っていきたいと思えます。

■ 吉田 龍也

大学の6年間は自由時間が多かったこともあり、それまであまり習慣のなかった読書をするようになりました。決して多読ではないのですが、その中でも面白かった本を2冊紹介させていただきます。

1 「サピエンス全史」(ユヴァル・ノア・ハラリ著、柴田裕之訳、河出書房新社)

ホモ・サピエンスが何故生き残り、どう発展してきたのかを、「認知革命」「農業革命」「科学革命」の3つの革命を通して紐解きます。特に、虚構を信じられようになった「認知革命」が面白く、当然のように信じている国家や貨幣や人権がすべて虚構であることに気づかされます。また、人類史を辿るだけに留まらず、文明は人類に幸福をもたらしたかという視点からも考察します。少々ボリュームですが、最後までワクワクしながら読了できると思えます。未来についての考察である、続編の「ホモ・デウス」もおすすめです。

2 「銃・病原菌・鉄」(ジャレド・ダイヤモンド著、倉骨彰訳、草思社)

「なぜ白人たちは多くのものを発達させてニューギニアに持ち込んだのに、私たちニューギニア人は自分たちのものといえるものがないんですか？」という現地人の問いかけから始まり、分子生物学や言語学などの広範な知見を積み上げて解明する名著です。東西方向に伸びる大陸こそが究極の要因であるとする筆者の主張には目から鱗です。

2冊とも人類史の本になってしまい申し訳ありません……。最後に、おすすめのYouTubeチャンネルも紹介させていただきます。

3 「予備校のノリで学ぶ大学の数学・物理」

大学レベルの数学や物理を中心とした理系科目の授業動画が多数アップされています。講師のたくみさんは、東京大学大学院卒業、博士課程進学とともに、6年間続いていた予備校講師を退き、このチャンネルを開設されました。非常に専門性の高い内容を、予備校講師の経験をいかし、初学者にもわかりやすく解説されています。

1. 地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

- Rieko Goto, Tatsuya Kondo, Kaoru Ono, Sayaka Kitano, Nobukazu Miyakawa, Takuro Watanabe, Masaji Sakaguchi, Miki Sato, Motoyuki Igata, Junji Kawashima, Hiroyuki Motoshima, Takeshi Matsumura, Seiya Shimoda and Eiichi Araki. Mineralocorticoid Receptor May Regulate Glucose Homeostasis through the Induction of Interleukin-6 and Glucagon-Like peptide-1 in Pancreatic Islets. *Journal of Clinical Medicine*. 2019 May; 8(5): 674. DOI: 10.3390/jcm8050674 PMID: 31091693 PMCID: PMC6571682
- Kaneko M, Van Boven K, Takayanagi H, Kusaba T, Yamada T, Matsushima M. Multicentre descriptive cross-sectional study of Japanese home visit patients: reasons for encounter, health problems and multimorbidity. 2019 Oct 5. pii: cmz056. doi: 10.1093/fampra/cmz056. PMID: 31586446 DOI: 10.1093/fampra/cmz056
- 藤本 晴香, 加島 雅之, 吉野 俊平, 高橋 和弘, 早野 恵子, 尾崎 美紀子, 谷口 純一. 『支部セミナーから 専門医部会 九州支部教育セミナー(企画:専門医部会) 内科診療アップデート』. *日本内科学会雑誌* 108(10), 2196-2203, 2019-10-10
- 松下 正輝, 古川 昇, 谷口 純一, 加藤 貴彦, 西谷 陽子, 尾池 雄一, 安東 由喜雄. 『意見: 医学教育における性的マイノリティに関する講義の実践』. *医学教育* 48(4), 265-266, 2019
- 谷口 純一, 松井 邦彦, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 前田 幸佑, 佐土原 道人, 小山 耕太, 田宮 貞宏, 古川 昇, 松下 正輝. 『地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか?』. *医学教育* 50(Suppl.) 235 - 235 2019年7月
- 高柳 宏史, 松井 邦彦. 『水俣から学ぶ地域志向性』. *医学教育* 50(Suppl.) 232 - 232 2019年7月
- 谷口 純一, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 古川 昇, 松下 正輝, 田代 雅文, 三好 智子, 西谷 克己. 『我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性(第2報)』. *医学教育* 50(Suppl.) 127 - 127 2019年7月
- 高柳 宏史. 『【高齢者医療におけるAIの活用】 高齢者医療におけるAI(Artificial Intelligence:人工知能)への期待』. *日本老年医学会雑誌* 56(3) 254 - 259 2019年7月
- 高柳 宏史. 『プライマリ・ケアの理論と実践(第29回) ICPCを用いたプライマリ・ケアにおける研究』. *日本医事新報* (4976) 8 - 9 2019年9月

◆ 研究

- 谷口 純一 (共同研究者)
『EPAを基盤とした基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目: 基盤研究B, 研究分野: 医療社会学, 期間 2017-2021
- 後藤 理英子
『鉍質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』
研究種目: 基盤研究C, 研究分野: 代謝学, 期間: 2017-2020
- 後藤 理英子 (共同研究者)
『女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言: フィンランドとの比較研究』
研究種目: 基盤研究C, 審査区分: 社会学関連, 期間: 2019-2022
- 後藤 理英子
『日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。』
『ステロイド投与による耐糖能悪化の機序及び治療法の検討』

◆ 学会発表

- 高柳宏史, 【三年次を対象にした学外での早期臨床体験実習の取り組み】, 第9回九州地域医療教育研究会, 2019/4/20
- 内藤貴一, 高柳宏史, 松井邦彦【地域医療実習について】, 第9回九州地域医療教育研究会, 2019/4/20, 口演
- 松原大勇, 川中みなみ, 吉田龍也, 高柳宏史, 松井邦彦, 【水俣芦北地域で実施した平成30年度夏季地域医療特別実習の報告】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-5/19
- 谷口純一, 【熊本県地域医療支援センターの活動報告】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17-5/19
- 後藤理英子, 【膵α細胞の鉍質コルチコイドレセプターは膵島におけるIL-6とGLP-1分泌を制御する】, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019/5/23-5/25
- 谷口純一, 【セッション名: プロフェッショナリズム①】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26, 座長
- 谷口純一, 【地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか?】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 谷口純一, 【我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性(第2報)】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 後藤理英子, 【熊本県における医師の働き方改革に必要な支援とは?】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 高柳宏史, 【水俣から学ぶ地域志向性】, 第51回日本医学教育学会大会, 2019/7/26-7-27
- 渡邊光紗, 高柳宏史, 松井邦彦 【熊本大学医学部地域枠 夏季地域医療特別実習について】第24回熊本県国保地域医療学会 2019/10/26

◆ 講演会(講師)

- 谷口純一, 【医療者教育におけるマインドフルネス入門 一私とあなたのセルフ케어】, 第72回医学教育セミナーワークショップ, 2019/5/25-5/26, 講師
- 高柳宏史, 【南海トラフ地震が起きたときに被災地で支援をどう受けるか~被害を最小限に食い止めるためのノウハウをみんなで語り合おう~】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/17, インスタレクトグループ
- 後藤理英子, 【熊本県における医師の働き方改革】, 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2019/5/19, シンポジウム
- 後藤理英子, 【女性医療者としてのキャリアを考える】, 第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー, 2019/6/30, セミナー
- 高柳宏史, 【私達の診ている地域では災害が起こるのです】, 第31回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー, 2019/8/3-8/5, セッション
- 後藤理英子, 【医療人の働き方改革を進めるために~熊本県における調査と全国の事例より~】, 熊本市公的病院等地域連携協議会, 2019/8/20, 基調講演
- 高柳宏史, 【包括的統合アプローチ】, 第41回 KOPe ミニレクチャー, 2019/8/20
- 高柳宏史, 大倉佳宏, 山田隆司, 大野每子, 山岡雅顕, 竹島太郎, 【ICPCを知ろう~総合診療のコード化・データベース化にむけて】, 日本プライマリ・ケア連合学会 第17回秋季生涯教育セミナー, 2019/9/22
- 谷口純一, 第5回福岡徳洲会病院JMECCコース, 2019/10/20, 講師
- 前田幸佑, 高柳宏史, 佐土原道人, 松井邦彦, 【外来で役立つ地域特性と医療連携について】, 生涯教育・研修医セミナー, 2019/10/21, 口演

- 後藤理英子，【誰もが輝くための、熊本県における女性医師支援と課題】，第57回日本糖尿病学会九州地方会，2019/10/25，ワークショップ
- 谷口純一，第5回看護師特定行為研修指導医講習会，2019/10/27，講義/グループワーク指導
- 谷口純一，第64回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州・熊本，2019/11/4
- 谷口純一，後藤理英子，令和元年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会，2019/11/15-11/16，タスクフォース
- 谷口純一，北区役所管内地域包括支援センター看護機能連絡研修会，2019/11/22，講師
- 谷口純一，令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会，2019/11/28，講師
- 後藤理英子，第29回臨床内分泌代謝Update，2019/11/29，座長
- 谷口純一，第154回臨床研修指導医講習会，2019/12/14，講習会運営
- 谷口純一，令和元年度福岡大学指導医講習会，2019/12/21-12/22，講師（タスクフォース）
- 高柳宏史，【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】，熊本県医師会 令和元年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28，講義
- 前田幸佑、高柳宏史、佐土原道人、松井邦彦，【アドバンス・ケア・プランニング～いのちの終わりについて考える～】，熊本県医師会 令和元年度 日本医師会生涯教育講座，2019/12/28，口演
- 谷口純一，山口県医師会主催「指導医のための教育ワークショップ」，2020/1/18-1/19，タスクフォース
- 後藤理英子，令和元年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会，2020/2/5，講師
- 谷口純一，第16回産業医科大学病院診療研修指導講習会，2020/1/31-2/1，講師
- 高柳宏史，【ポートフォリオセッション】，第3回熊本総合診療研究会，2019/2/11
- 谷口純一，令和元年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修，2020/2/15，講師
- 谷口純一，【指導医養成講習会】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/22
- 高柳宏史，【指導医養成講習会】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/22
- 藤谷直明，飛松正樹，高柳宏史，山入端浩之，田浦尚宏，崎山隼人，村田祥子，酒井達也，石原あやか，【教育や指導でなんかうまくいかないと思ったら～教育の困難事例への挑戦】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/23
- 後藤理英子，第15回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー，2020/2/28，講師・ファシリテーター

◆ 受賞

- 後藤理英子，第8回西予市おいネ賞事業 全国奨励賞，2019/8/5
- 松井邦彦，谷口純一，高柳宏史，令和元年度熊本大学教育活動，入賞，地域医療教育の充実の向上に関する貢献，2019/11/15

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K. Total adiponectin is associated with incident cardiovascular and renal events in treated hypertensive patients: subanalysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. *Sci Rep.* 9, 16589 (2019).
- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K. Anemia is an independent risk factor for cardiovascular and renal events in hypertensive outpatients with well-controlled blood pressure: a subgroup analysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. *Hypertens Res.* 42, 883-891 (2019).
- Kojima S., Matsui K., Hiramitsu S., Hisatome I., Waki M., Uchiyama K., Yokota N., Tokutake E., Wakasa Y., Jinnouchi H., Kakuda H., Hayashi T., Kawai N., Mori H., Sugawara M., Ohya Y., Kimura K., Saito Y., Ogawa H. Febuxostat for Cerebral and CaRdiorenovascular Events PrEvEntion StuDy. *Eur Heart J.* 40, 1778-1786 (2019).
- Sakakibara A., Matsui K., Katayama T., Higuchi T., Terakawa K., Konishi I. Age-related survival disparity in stage IB and IIB cervical cancer patients. *J Obstet Gynaecol Res.* 45, 686-694 (2019).
- Sueta D., Tabata N., Ikeda S., Saito Y., Ozaki K., Sakata K., Matsumura T., Yamamoto-Ibusuki M., Murakami Y., Jodai T., Fukushima S., Yoshida N., Kamba T., Araki E., Iwase H., Fujii K., Ihn H., Kobayashi Y., Minamino T., Yamagishi M., Maemura K., Baba H., Matsui K., Tsujita K. Differential predictive factors for cardiovascular events in patients with or without cancer history. *Medicine (Baltimore).* 98, e17602 (2019).
- Tabata N., Sueta D., Yamamoto E., Takashio S., Arima Y., Araki S., Yamanaga K., Ishii M., Sakamoto K., Kanazawa H., Fujisue K., Hanatani S., Soejima H., Hokimoto S., Izumiya Y., Kojima S., Yamabe H., Kaikita K., Matsui K., Tsujita K. A retrospective study of arterial stiffness and subsequent clinical outcomes in cancer patients undergoing percutaneous coronary intervention. *J Hypertens.* 37, 754-764 (2019).
- Yasuda S., Kaikita K., Akao M., Ako J., Matoba T., Nakamura M., Miyauchi K., Hagiwara N., Kimura K., Hirayama A., Matsui K., Ogawa H. Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease. *N Engl J Med.* 381, 1103-1113 (2019).

◆ 研究

□ 佐土原 道人

『地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究』

平成30年度科学研究費助成事業 研究種目：挑戦的研究(萌芽)， 研究分野：教育学およびその関連分野， 期間：2018-2021

◆ 学会発表

- 久保崎 順子，北村 泰斗，空田 健一，松田 圭史，中村 孝典，前田 幸佑，小山 耕太，田宮 貞宏，佐土原 道人，谷口 純一，松井 邦彦，【社会的要因で転院に苦慮した末期肝不全の症例】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-19，ポスター
- 空田健一，北村泰斗，久保崎順子，田中顕道，中村孝典，高崎清香，中野万理，松本加奈子，安成英文，小山耕太，田宮貞宏，松井邦彦，【地域を担う開業医との訪問診療、市民公開講座での専攻医としての学び】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-19，ポスター
- 佐土原道人，2年次研修医の労働・職場環境および将来の専門研修プログラムに対する認識の推移，第92回産業衛生学会，2019/5/22-25，口演
- 前田幸佑，刈谷龍昇，Jutatip Panaampon，Gunya Sittithumcharee，岡田誠治，【エロツズマブはVγ9Vδ2T細胞の原発性滲出性リンパ腫に対する抗腫瘍活性を増強する】，第81回 日本血液学会学術集会，2019/10/11-13，口演
- 前田幸佑，佐土原道人，井手尾勝政，入江弘基，松井邦彦，【重度の側腹部痛で救急搬入され、診断に苦慮した孤立性上腸間膜動脈解離の1例】，第20回日本病院総合診療医学会学術総会，2020/2/21，口演

◆ 講演会（講師）

- 松井邦彦，【第10回日本プライマリケア連合学会学術集会】，座長，2019/5/18-19
- 佐土原道人，【第151回臨床研修指導医講習会（全国自治体病院協議会）】，タスクフォース，2019/8/23-25
- 佐土原道人，【第19回日病院総合診療医学会】，座長，2019/9/14
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第1回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/10/27
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第6回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/11/2
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第7回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/11/3
- 松井邦彦，【第6回地域医療講座講演会】，久留米大学医学部，講義，2019/11/8
- 松井邦彦，【臨床疫学 診療ガイドラインガイドラインの評価について】，聖路加国際大学公衆衛生大学院，講義，2019/11/19
- 松井邦彦，【令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医講習会】，タスクフォース，2019/11/28-30
- 佐土原道人，【第25回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/21-22
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第9回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/22
- 佐土原道人，【行動医学に基づく患者の行動変容支援】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 前田 幸佑，【「アドバンス・ケア・プランニング」～いのちの終わりについて考える～】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 高柳 宏史，【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】，熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第2回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2020/1/26
- 佐土原道人，【第20回日病院総合診療医学会】，座長，2020/2/21
- 松井邦彦，【第15回プライマリ・ケア連合学会 九州支部学術大会】，座長，2020/2/23

3. 玉名教育拠点

◆ 論文、執筆

- Amano M, Bulut H, Tamiya S, Nakamura T, Koh Y, Mitsuya H. Amino-acid inserts of HIV-1 capsid (CA) induce CA degradation and abrogate viral infectivity: Insights for the dynamics and mechanisms of HIV-1 CA decomposition. Sci Rep. 08 Jul 2019, 9(1):9806. DOI: 10.1038/s41598-019-46082-2 PMID: 31285456 PMCID: PMC6614453

◆ 学会発表

- 小山 耕太，前田幸佑，田宮貞宏，谷口純一，松井邦彦，【「地域での総合診療医育成」～地域の医療機関はどう考えているのか～】，第9回九州地域医療教育研究会，2019/4/20，口演
- 北村泰斗，小山耕太，田宮貞宏，【血清学的梅毒患者の一例】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-19，ポスター
- 武末真希子，小山耕太，田宮貞宏，【アルコール多飲や低栄養を背景に有し、Streptococcus anginosus groupによる肝膿瘍の治療後に、断酒継続の行動変容に成功した一例】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2020/2/22-23，口演

◆ 講演会（講師）

- 小山 耕太，【地域での臨床研修医育成】，宇土地区医師会学術講演会，2019/8/21
- 小山 耕太，【「病院総合医教育の最先端 ～新たなる挑戦～」～地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検証～】，第19回日本病院総合診療医学会学術総会，シンポジスト，2019/9/14-15